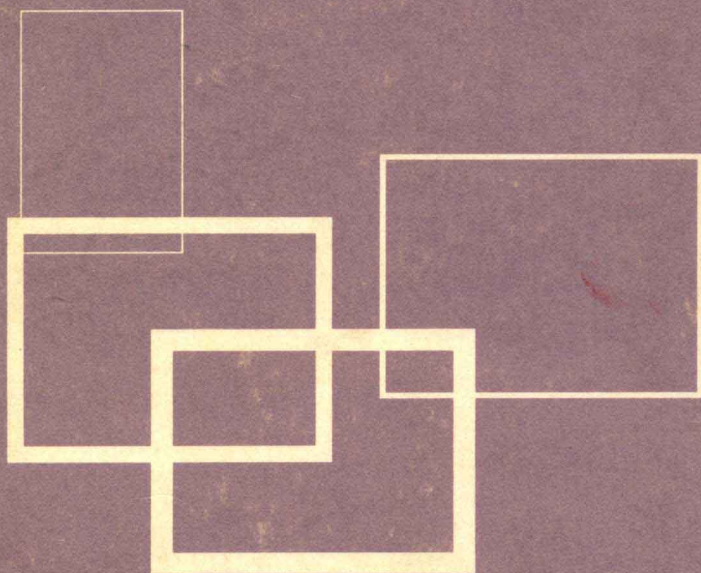


中国語の動相

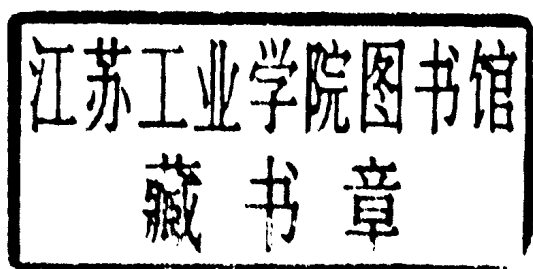
朱 繼征 著



白 帝 社

中国語の動相

朱 繼征 著



白 帝 社

著者紹介

朱 繼征（シュ ケイセイ／ZHU JIZHENG）

1955年北京生まれ。厦門大学中国文学学部及び北京外国語学院日本語学部卒業。北京国家海洋局職員、北京語言学院講師を経て、1988年来日。東京都立大学大学院人文科学研究科博士課程、富山大学人文学部外国人教師を経て、現在、新潟大学経済学部助教授。1982年から中国と日本の言語文化の対照研究に従事。著書、訳書、論文多数。

中国語の動相

2000年4月28日 初版発行

著 者 朱 繼征

発行者 佐藤康夫

発行所 白 帝 社

〒171-0014 東京都豊島区池袋2-65-1

電話 03-3986-3271 FAX 03-3986-3272

組版 伊豆山秋子 印刷 大倉印刷 製本 蒼洋社

Printed in Japan 〈検印省略〉6914 ISBN4-89174-434-0

目 次

凡 例	4
第一章 序 説	6
第二章 「助動詞＋動詞」と否定 —— “不”と“没”の文法的使い分けと意味的分析を中心に——	29
第三章 進行相について —— “在～”と“～着”の文法的使い分けと意味的分析を中心に—— ...	40
第四章 完了相について —— “～完”と“～过”の文法的使い分けと意味的分析を中心に—— ...	61
第五章 残存相について —— “～着”と“～了”の文法的使い分けと意味的分析を中心に—— ...	75
第六章 副詞と動相について —— “再”と“又”の文法的使い分けと意味的分析を中心に——	97
付 録 “吗”と“呢”について	111
参考文献	129
中国語の概要	157
索引	161
謝辞	176

Some Aspects of Chinese Usage

Niigata University Zhu Jizheng

Synoptic Table of Contents

Notes to the Reader	4
I. Introduction	6
II. The “Auxiliary Verb + Verb” Plus the Negative——Focusing on the Grammatically Proper Use Differentiating between “bu(不)” and “mei(没)”, and Analysis of the Meanings	29
III. On the Progressive Forms ——Focusing on the Grammatically Proper Use Differentiating between “zai(在)~” and “~zhe(着)”, and Analysis of the Meanings	40
IV. On the Perfect Forms ——Focusing on the Grammatically Proper Use Differentiating between “~wan(完)” and “~guo(过)”, and Analysis of the Meanings	61
V. On the Surviving Forms ——Focusing on the Grammatically Proper Use Differentiating between “~zhe(着)” and “~le(了)”, and Analysis of the Meanings	75
VI. Some Observations on Adverbs and Verb Aspects ——Focusing on the Grammatically Proper Use Differentiating between “zai(再)” and “you(又)”, and Analysis of the Meanings	97

Appendix : On“ma(吗)”and“ne(呢)” 111

Bibliography 129

Summary of Contents in Chinese 157

Index 161

Acknowledgments 176

凡 例

- 一、「V」は動詞を示す。
- 二、例文の前の「*」は非文を示す。
- 三、中国語の概念は“ ”をもって示す。
- 四、日本語の概念は「 」をもって示す。
- 五、引用文における記号の表示は、原文にしたがう。
- 六、例文の作例は、特に断らない限り、著者によるものである。
- 七、引用文中の……は、特に断らない限り、引用者による省略を意味する。
- 八、引用文と例文の日本語訳は、特に断らない限り、著者によるものである。
- 九、例文の前の「？」は特殊な文脈の支えがなければ成立しにくいという意味を表す。

中国語の動相

第一章 序 説

目 次

1. はじめに
2. 先行研究
 - 2.1. 中国語の“動相”の定義に関する先行研究
 - 2.1.1. 呂叔湘（1942）
 - 2.1.2. 張志公（1953）
 - 2.1.3. 王松茂（1981）
 - 2.1.4. 李臨定（1990）
 - 2.1.5. 房玉清（1992）
 - 2.2. “動相”の諸形式に関する先行研究
 - 2.2.1. 呂叔湘（1942）
 - 2.2.2. 王 力（1943）
 - 2.2.3. 王松茂（1981）
 - 2.2.4. 木村英樹（1982）
 - 2.2.5. 藤堂明保・相原茂（1985）
3. 問題点
4. 中国語の“動相”について
5. “動相”諸形式の再整理
6. 中国語の“静相”について
7. 中国語の“動相”と“静相”の相違点

1. はじめに

いわゆる「aspect」という概念については、日本語では、「アスペクト」と訳されることもあるし、また、「相」或いは「態」と訳されることもある。一方、中国語では“態”、“動態”或いは“体”と訳されることもあれば、“動相”、“情貌”或いは“相”と訳されることもある。先行研究の引用は各々の言い方に従うが、本書では、呂叔湘（1942）に従い、「aspect」を“動相”と呼ぶことにする。

本章では、“動相”の定義と“動相”諸形式に関する先行研究をいくつか紹介し、先行研究の不備と問題点を指摘した上で、“動相”の本質について改めて考える。

また、先行研究を踏まえ、新たにより明確な“動相”の定義を下して、さらに中国語の“動相”諸形式を再整理し、研究対象と範囲を限定して、本論への展開のために、予備考察しておく。

2. 先行研究

「アスペクトの研究の歴史をたどってみると、はじめはギリシャ語やスラブ語の動詞の意味形態論的研究に端を発し、徐々に他の言語に及ぼされていったものであるが、研究が深まり、広がるにつれて、アスペクトが特定の言語の特定の品詞だけにかかわるものではなくて、形こそ異なれ、あらゆる言語の中に見出される現象であることが明らかになって来た。」

「アスペクトが単なる語形の問題でなく、人間に共通な時間意識の表現であり、およそ人間の用いる言語すべてにこの意識が何らかの形で反映していることをこれまでのアスペクト研究が明らかにして来たと言える。」（山田小枝 1984. 序）

要するに、“動相”は特定の言語だけに現れるものではなく、たとえ形式の

差異があっても、あらゆる言語に共通して見られる現象である、ということは、すでによく知られている言語事実である。

日本語研究においては、“動相”に関する研究が盛んに行われている。例えば、金田一春彦(1954.1976.p.60.)は「アスペクトとは、動詞その他用言の意味する動作・作用の進行の相を示す形態の違いである。そして、アスペクトの一つ一つの態は、他の動詞で置き換えることができるような意味を有する。」と定義している。

「aspect」という概念について、バーナード・コムリー (Bernard Comrie (1976.p.3.)) は Holt (1943) の「過程のながれそのものを捉える、様々な仕方」(山田小枝訳1988.p.16.) という定義にもとづいて、「different ways of viewing the internal temporal constituency of a situation.」と定義している。

このコムリーの定義に対して、寺村秀夫(1984)は「ある事態の内部的な時間的構成のいろいろな見方」(p.114.) と訳している。そして、「アスペクトというのは事象をある幅、プロセスの中のどういう位置にあるかを表そうとする形式である。」(pp.117-118.) と定義し、また、「事象を幅として見るというのは、いわゆる『継続』のように、事態そのものを幅として描く場合もあるが、事象そのものは点であっても、幅が背景として意識され、その中で点であるということを表そうとする場合も含まれる。」(p.118.) と説明している。

これに対して、山田小枝(1988)はコムリーの定義を次のように訳している。

「アスペクトの一般的な定義としては、『アスペクトは場面の内的な時間構成を捉える、さまざまな仕方である』という公式を、我々は採用することにする。(pp.11-12.)」

『日本語基本動詞用法辞典』(1989)では、「相(アスペクト)とは、例えば『走る』のように、動詞の表す動きを丸ごと捉えるのか、『走ッテイル』のように、動きの中に分け入って過程を広げたあり方で捉えるのか、又、『走りカケル』『走りハジメル』『走りオワル』などのように、動きの展開局面のどの部分を捉えるのかと言った、動詞の表す動きの全過程のどの局面に焦点を置

いて、その動きを捉え、表現するのかを表し分けるものである。」(xxvii 頁)と定義している。

中国語の学界においても、“動相”に関する研究は遅れを取っているとはいえ、ある程度の成果が蓄積されている。中国語の“動相”に関する先行研究も見てみよう。

2.1. 中国語の“動相”の定義に関する先行研究

2.1.1. 呂叔湘 (1942)

“假如我们要表示一个动作的时间性, 我们可以用种种时间词来表示那些时间, ……我们又可以用一些限制词如‘将’、‘方’、‘已’等, 来表示那个动作本身是将要发生, 或正在进行, 或已经完成。在前一种表现法, 时间观念和动作观念是拆得开的; 在后一种表现法, 时间观念已经融化在动作观念里, ‘将’、‘方’、‘已’等字离开动词是没有显明充实的意义的。我们说, 这些限制词所表示的不是‘时间’, 是‘动相’, 一个动作的过程中的各种阶段。”(動作の時間性を表現するには、色々な時間を表すことばを使って、これらの時間を表すことができる。……また、“将”、“方”、“已”などのいくつかの副詞を使って、その動作が今にも起こりそう、或いは正に行われている、或いはすでに終わったということを表すことができる。前者の表現法は時間觀念と動作觀念とを引き離すことができる。後者の表現法は時間觀念がすでに動作觀念に溶け込んでしまって、“将”、“方”、“已”などの字を動詞から離すと、明らかに実質的な意味を持たないのである。これらの副詞は「時間」を表すのではなく、“動相”を表すのであり、ある動作の過程の各段階を表すのである。)(1982 新一版 .pp.227-228.)

2.1.2. 張志公 (1953)

“汉语动词的变化, 有一点值得注意。一般说来, 动作行为等发生的时间(语法上称为‘时’)或进行到了什么程度(语法上称为‘态’), 都得加上别

の词语去表现。不过情形不一样。表现时间，一般要在句子里另用表时间的名词或形容词，虽然在关系上讲这些词往往也是修饰动词或补足动词的，但并不附着在动词上。表现动态，一般是在动词上下加上个特殊的虚词，这些虚词在结构上讲跟动词的关系很密切，简直可以说已经附着在动词上了。所以大体上可以说，汉语的动词不表时，只表态。叙述句既以动词为谓语的主体，那么动词怎样表态，是值得我们注意的一点。”（中国語の動詞の変化には、一つ注意しなくてはならぬ点がある。一般的に言って、動作行為等の発生する時間（語法上『時』という）、或いはどの程度にまで進行したか（語法上『態』という）は、いずれも他の詞を加えて表現しなければならないが、しかし、その事情は両者同一ではない。即ち、時間を表すには、一般に句の中に時間を表す名詞或いは形容詞を別に用いなくてはならず、その間の関係を見てみると、これらの詞は通常動詞を修飾或いは補足しているけれども、決して動詞に付着しているのではない。一方、動態を表すには、一般に動詞の前後に特殊な虚詞を加えるのであるが、これらの虚詞は構造上、動詞との関係は非常に密接であって、既に全く動詞に付着してしまっていると言える。従って、大体において、中国語の動詞は時を表さず、態を表すだけだということができる。叙述句が動詞を述語の主体としている以上、動詞がどの様に態を表すかは、注意しなくてはならない点である。）（香坂順一訳＜1955.p.138.＞）と述べている。

2.1.3. 王松茂（1981）

“体貌范畴的语法意义是指动作变化在一定时间的过程中的方式或状态，这里所说的方式是指动作的开始、进行、完成、持续、结果、反复或终止等等；不是指现在时、过去时、将来时。”（“体貌”のカテゴリーの文法的意味とは、動作変化の一定の時間的過程における方式或いは状態を指す。ここで言う方式とは、動作の開始、進行、完成、持続、結果、反復や終止などを指すものであって、現在、過去、未来というテンスを指すのではない。（p.65）

2.1.4. 李臨定 (1990)

“‘体’是动词体现的另一种重要语法范畴。它通常是指，在语流中，动词所显示的动作行为在进程中所处不同阶段的状态。在描写汉语语法的著作中，在说明动词的这种进程状态时，有的称之为‘动态’，有的称之为‘动相’，我们采用了语言学中的一般用名，称之为‘体’。”（“体”は動詞が表すもう一つの重要な文法的カテゴリーである。それは通常ことばの流れにおいて、動詞が表す動作行為が進められていく過程の中のさまざまな段階における状態を指す。中国語文法の著作において、動詞のこの過程を説明する場合に“動態”とするものもあるし、“動相”とするものもあるが、ここでは、言語学での一般的な言い方を採用し、“体”と呼ぶことにする。）（p.31.）

“一个动作行为的进程主要有三个阶段：动作行为开始，动作行为持续进行，动作行为完结。”（動作行為の行われる過程には主に三つの段階があり、「動作行為の開始」、「動作行為の持続進行」、「動作行為の完結」である。）（p.31.）

2.1.5. 房玉清 (1992)

“‘动态’（aspects）虽然跟时间有关，但并不从属于“时”（tenses）的范畴，而是一个独立的语法范畴。它主要表示动作的进程和状态的变化，说明动作和状态在某一时间内的种种情况。”（“動態”（aspects）は時間と関係があるが、『時』（tenses）のカテゴリーに従属しているものではなく、独立した文法的カテゴリーである。それは主に動作の進行過程と状態の変化を表し、動作と状態のある時間内における様々な状況を示している。）（p.446.）

“表示动态的基本概念有两个：持续性和间断性。在语法上，前者称为‘进行’，后者称为‘开始’或‘完成’。”（動態を表す基本概念は二つあり、それは持続性と断続性である。文法上、前者を「進行」と称し、後者を「開始」或いは「完了」と称する。）（p.446.）

以上のように、“動相”の定義に関しては、文法学者によって、それぞれの表現と捉え方に大分違いがあるが、“動相”を“時制”(tense)とはっきり区別しようとする点では共通している。

2.2. “動相”の諸形式に関する先行研究

2.2.1. 呂叔湘(1942)

呂(1942.1982. 新1版.pp.228-233.)はかなり広い範囲で、中国語の“動相”の表現を捉えて、その諸形式を十二種類に分けているが、次のようにまとめられる。

- (1) 方事相：“着” ——方事相和既事相是最重要的两种动相。方事相表动作正在持续之中，动相词用“着”。和“正在”合用的时候，语势重些，单用的时候轻些。(方事相と既事相は最も重要な二つの動相である。方事相は動作が正に持続中であることを表し、“動相”助詞は“着”を用いる。“正在”と合わせて用いると口調は強まり、単独で用いると軽い。)
- (2) 既事相：“了” ——……“了”字同时有两个作用，表示动作的既事相，也表示决定的语气。(……“了”という字は同時に二つの役割を持っている。一つは動作の“既事相”〈完了〉を表し、もう一つは決定的語気をも表す。)
- (3) 起事相：“起来” ——“起”字本有起始之义，所以“起来”附在动词之后可以表示一个动作的开始(并且继续)。(“起”という字自身に始めるという意味があり、“起来”は動詞の後に付けて動作の開始〈並びに継続〉を表すことができる。)
- (4) 继事相：“下去” ——“下去”附在一个动词后可以表示一个动作的延续。继事相和方事相不同，方事相是只就某一时点

说，继事相是始于一个时点而兼及其后。起事相也是始于一个时点而兼及其后，但这个时点正是这个动作的开始，而继事相所取的时点是动作过程中间的一点。（“下去”は動詞の後に付けて動作が引き続いて行われていることを表せる。“继事相”と“方事相”は異なり、“方事相”がある時点だけを言っているのに対し、“继事相”はある時点から始まり、その後にも及ぶのである。“起事相”もある時点から始まり、その後にも及ぶが、この時点というのは正にこの動作の開始する時点であり、“继事相”の時点は動作過程中のある時点である。）

- (5) 先事相：“去”“来” —— 预言动作之将有，称先事相；表示先事相用“去”或“来”，尤以“去”为多。（動作が將に発生することを予告するのは“先事相”と称する。“去”或いは“来”を用いて、先事相を表すが、とりわけ“去”が多い。）
- (6) 后事相：“来”“来着” —— 后事相指一个动作已经有过，这儿应用的动相词又是“来”字。……现代多用“来着”。（“後事相”はある動作がすでに行われたことを指し、ここで使われる“動相”助詞はやはり“来”である。……現代語において“来着”が多く用いられる。）
- (7) 一事相：“V+了+一回の動量詞” —— 凡是仅仅表示有过一个动作的，可称为“一事相”。（動作が一度だけ行われたことを表すのは“一事相”と称することができる。）
- (8) 多事相：“V+了+二回以上の数詞+動量詞” —— 和这个相对，“敲了两下”之类可以称为“多事相”。（“一事相”に対して、“二回ノックした”などのような類は“多事相”と称

することができる。)

(9) 短时相：“V+V” “V+-+V” “V+了+V” ——有许多动作实在不大分得出次数，用定量的说法往往有暂时或轻微之意，可称为“短时相”。(多くの動作はその回数をあまりはっきり分けることができないので、定量的な言い方では往々にして暫時或いは軽い意味になり、これを“短時相”と称することができる。)

(10) 尝试相：“V+V” “V+-+V” ——有时又可有尝试之意，可称为“尝试相”。……“尝试相”限于未完成的动作，既成的动作就只能仍然并入“短时相”。(場合によってある時は試してみるという意味もあり、これを“嘗試相”と称することができる。……“嘗試相”は未完了の動作に限られ、既に行われた動作は全て“短時相”である。)

(11) 屡发相：“V₁V₁+V₂V₂” ——叠用两个定量动词，又可以表示这些动作的继续出现，这可以称为“屡发相”。(二つの定量動詞を重ねて用いると、これらの動作が継続して行われていることを表すこともでき、“屢発相”と称することができる。)

(12) 反复相：“V+了+又+V” “V+来+V+去” ——屡发的事情，要是特别注重相继不断的意思，可称为“反复相”。(しばしば発生する事、特に相次ぐことの意味を強調するなら“反復相”と称することができる。)

2.2.2. 王力 (1943)

王力 (1943.1985 新一版 .pp.151-159.) は中国語の“動相”を“情貌”と名付けて、その諸形式を七種類に分けているが、次のようにまとめられる。